

非核奈良

森本孝順(唐招提寺長老)筆

2009年
11月10日
第89号

発行 非核の政府を求める奈良の会
〒630-8213 奈良市登大路町36 大和ビル4F
奈良合同法律事務所気付
電話0742-26-2457 FAX26-3010 郵便振替01020-1-56459

私たちは非核の五項目を
実行する政府を求めます

- ①全人類共通の緊急課題として核戦争
防止、核兵器廃絶の実現を求める
- ②国是とされる非核三原則を厳守する
- ③日本の核戦場化へのすべての措置を
阻止する
- ④国家補償による被爆者援護法を制定
する
- ⑤原水爆禁止世界大会のこれまでの合
意にもとづいて国際連帯を強化する

非核平和の集い

ドイツにおける「過去の克服」の条件と葛藤
～日本と対比しつつ～

講演 望田幸男氏



望田幸男氏

プロフィール もちだゆきお
1931年山梨県生まれ、同志社大学名誉教授、
ドイツ近現代史専攻、
非核の政府を求める京都の会常任世話人代表
関連著書：『ナチス追及』（講談社新書）、
『戦争責任・戦後責任』（共著、朝日選書）
『ふたつの近代』（朝日選書）、
『ネオナチのドイツを読む』（新日本出版社）、
『ナチスの国の過去と現在』（新日本出版社）、
『二つの戦後・二つの近代-日本とドイツ』
（ミネルヴァ書房）など。

望田氏からのメッセージ

日本では、なぜ「過去（戦前・戦時）の反省」が定着しないのか。ドイツ（西独）はモデルなのか
ドイツにおける「過去の反省」をめぐる内外の諸条件、「反省」と「追及」をめぐる人間的葛藤やジレンマ、そしてその結実とともに限界もさぐってみたい。そこには「日本における過去の反省」のあり様（問題点）が、どのように点滅してくるだろうか
「過去の反省」は「未来の希望」につながるものでありたい。この願いの未来像は、EUに生きるドイツのように、「東アジア共同体」への「希望」であろうか

2009年12月2日(水) 午後6時30分～

奈良県文化会館 第3会議室(近鉄奈良駅から東へ5分)

参加費 無料

どなたでもご参加いただけます

主催 非核の政府を求める奈良の会

問い合わせTel 0742-26-2457 (奈良合同法律事務所気付)

後援 奈良反核医師の会



一月常任世話人会
での提言者

脱原発の堀田さんから
メッセージ

奈良脱原発ネットワーク 代表

堀田 美恵子

「非核の政府を求める奈良の会」
のみなさまへ

唯一の原爆体験国の国民なら、
核の思いを持っていて当然とは思
うのですが、頭の中での漠然とした反
核でしかなかったことを、23年前の
チェルノブイリ原発事故を経験して
から思い知りました。放射能を放出
したのは原爆ではなく、「核の平和利
用」とすり込まれた原子力発電所だっ
たこと、チェルノブイリ救援を通じ
て、「ヒバクシャ」たちが抱える悩
みや痛みが長崎や広島ヒバクシャ
と共通であることを知りました。

原子力発電所を運転するために出
る廃棄物から「ウラン兵器」が作ら
れ戦地で使われ、世界に多くの「ヒ
バクシャ」を作り出している現状は
自分自身が加害者になっている後ろ
めたさからも解放されません。私が
思い至った「チェルノブイリから非
核の世界へ」をお話してきたらと思
います。

今こそ非核の世界をめざして

今 正秀（事務局長）

・オバマ・アメリカ大統領にノーベル平和賞

10月9日、今年のノーベル平和賞が、全世界から推薦された205の個人・団体の中からアメリカのオバマ大統領に贈られました。以下に受賞理由全文を引用します。

【オバマ氏は、大統領として国際政治の中で新たな機運を作り出した。国連やその他の国際機関が果たすことのできる役割を主張したことで、多

国間外交は、中心的な位置を取り戻した。最も困難な国際紛争を解決する手段として、対話と交渉が優先されるようになった。核なき世界の理念は、軍縮や軍備管理交渉に力強い刺激を与えた。オバマ氏の主導のおかげで、世界が直面する気候変動の挑戦に立ち向かう上で、米国はこれまでより建設的な役割を果たしている。民主主義と人権も強化されるだろう。

オバマ氏ほど、よりよい未来への希望を人々に与え、世界の注目を引きつけた個人はまれだ。オバマ氏の外交は、世界を指導すべき者たちは、世界中の人々の大半が共有する価値や態度を基盤にして導かなければならないという考えに基づいている。

108年にわたって、委員会はその

のような国際的な政策や態度を促進することを目指してきたが、まさに今、オバマ氏がその政策の、世界を率いるスポークスマンになっている。委員会は、オバマ氏が「今こそ、私たち全員が、グローバルな課題に対してグローバルな対応をとる責任を分かち合うべき時だ」と強調していることを支持する。】

・NPT再検討会議で核廃絶に道筋を

紹介した受賞理由からは、ヒロシマ・ナガサキ以来、64年にわたって被爆者や全世界の人々が望み、求めてきた核廃絶が「世界中の人々の大半が共有する価値や態度」となっていること、そして、オバマ氏の受賞はそれを受け容れ、それに沿った方向にアメリカの政策を転換していくことを決意したためであることが知られます。オバマ氏は、チェコ・プラハでの演説で「核兵器を使用した唯一の国」としての米国の道義的責任に言及し、「核なき世界」をめざすことを表明。その後、ロシアとの核軍縮交渉で一定の合意を形成し、9月には「核不拡散と核軍縮」をテーマにした国連安全保障理事会の首脳会合を主宰して、「核兵器のない世界」をめざす歴史的な決議を全会一致で

採択に導きました。このアメリカの政策転換に全世界が支持を表すとともに、それを確かなものとするための国際的な合意を形成する上で重要な意味を持つのが、来年5月に開催されるNPT（核不拡散条約）再検討会議です。NPTは1970年に発行した国際条約で、核不拡散（米・ソ（現在は露）・英・仏・中以外に核兵器保有を認めない）と核軍縮を締約国の義務とし、原子力の平和利用を権利とするもので、その運用を検討するための会議が5年に1度開催されます。2000年の会議では、

「核保有国の核廃絶に向けた明確な約束」を含む最終文書が、核保有国を含む全会一致で採択されました。ところが、2001年にアメリカでブッシュ政権が成立すると、アメリカはこの「核廃絶へ向けた明確な約束」を全く無視します。そして、2005年の会議では、北朝鮮やイランを念頭に核不拡散を振りかざすばかりで、自らの核軍縮義務を全く顧みようとしませんでした。そのため、会議は最終文書も合意できず、何らの成果を得ることもできませんでした。ちなみに、ブッシュ政権は地球温暖化対策として二酸化炭素排出量削減を誓った京都議定書をも反故にしました。それを思えば、今回のオバマ大統領のノーベル平和賞受賞理由が「核なき世界」と「気候変動の挑戦に立ち向かう」ことをあげているの

は、アメリカの政策転換の重要性を認識してのことであることが分かります。来年のNPT再検討会議は、流れを再び核廃絶へ向かわせるための正念場になると考えられます。

・日本の核政策

戦後の日本人は、戦争体験・被爆体験にもとづき、戦争や核兵器に強い拒否感を持ち続けるとともに、被爆者を初めとして、原爆を投下したアメリカを恨み憎むのではなく、同じような惨害を三度繰り返してはならないという思いから核兵器廃絶を訴えてきました。1954年、南太平洋で第五福竜丸がアメリカの水爆実験の灰を浴び、久保山愛吉さんが亡くなると、核兵器廃絶に向けた国民的な運動が高まりました。

一方、自民党政権のもとで、日本政府は「唯一の被爆国」として核軍縮・核廃絶を訴え続けてきたとはいえ、核軍縮には段階的なアプローチが必要であり、核保有国に敵対しては軍縮は進まないという理由で、安全保障理事会に提出した決議案は「究極的目標としての廃絶」をめざすものでした。しかしこれは、核廃絶をいつ実現するかを問わないもので、その意味では本当に核廃絶をめざしているのかを疑われてもやむを得ないものでした。

しかも、日本政府が非核三原則を国是とする一方で、安全保障のためにはアメリカの核の傘が不可欠とし、

【自薦】

『司馬遼太郎の歴史観』

—その「朝鮮観」と
「明治栄光論」を問う—

中塚 明

自分の書いた本を自分で推薦する??のはおこがましいかぎりですが、できるだけ読んでいただきたいので、あえて紙面をお借りすることになりました。

NHKが今年の一月二十九日(日曜日)の夜から、再来年の晩秋から年末にかけて、司馬遼太郎の『坂の上の雲』を一回に分けてスペシャルドラマとして放送します。ご存じですか？

『坂の上の雲』は二〇〇〇万部(文春文庫では八冊ですからそれも勘定してのことだと思えます)も売れたそうです。この小説は、日露戦争は「ロシアから日本を守る祖国防衛戦争」だった、それに勝った「日本万歳、明治は栄光の時代」という長編小説です。読んでいて気分がよくなる日本人がたくさんいるのですね。しかし、ちょっと待って！ 明治時代、日本は大国の仲間入りをしたのは事実だけど、それは隣の国、朝鮮を踏み台にすることではなかったのか。司馬さんはこの『坂の上の雲』で、朝鮮は無力で日本が朝鮮を

支配するのはときの世界のなりゆきからみて仕方がなかったかのように書いています。しかし、日本が朝鮮にどんなことをしたのか、朝鮮人はその日本に対してどうしたのか、こんな大事なことをなにも書いていません。

来年は日本が韓国(朝鮮)を植民地にした「韓国併合」から一〇〇年目です。韓国・朝鮮から見れば「国恥一〇〇年」の年です。この歴史の節目のときに、こんな独りよがりの「明治の日本万歳」のドラマをなぜ放送するのか、おまけにこの『坂の上の雲』は司馬遼太郎が映画やTVドラマなど映像化しないでくれ、と言っていた作品なのです。それをあえて無視してNHKが放送する意図はなんだ、日本人がいま考えなければならぬ問題はなにか。それを書きました。読んでくださってほしいよに考えていただければ幸いです。



(一七〇〇円+税、高文研、

電話 〇三―三三九五―三四一五)

核密約を結んでいたことが明らかになっています。こうした二枚舌的な日本の姿勢は、国際社会における信頼を大きく損なってきたといつて過言ではないでしょう。日本がアメリカに核の傘による安全保障を求めたのは、中国の核開発に脅威を感じたためといわれていますが、核の傘を求めたのも、非核三原則を唱えたのも佐藤栄作首相であったことに、日本の核政策の二枚舌的なあり方が象徴されています。というよりも、アメリカに核の傘を求めたのは、日本が核開発をしないことと引き替えて

あったのです。こうした政策をとった佐藤首相が、非核三原則の提唱をも理由としてノーベル平和賞を贈られたことは、今となってはまるで悪い冗談のようです。今年8月の総選挙で政権を担うことになった民主党も、安全保障・核政策では足下が定まっているとはいえないようです。

・世界のみなさんにも核兵器廃絶を

しかし、今こそ、非核の世界をめざす国際世論と手を携え、わたしたちがまず非核の日本を、そして非核の世界を実現するべき時です。それは、核兵器を保有しなくても安全が保障される状況をつくり出すということですから。そのためには、今年のノーベル平和賞受賞理由が述べる「最も困難な国際紛争を解決する手段として、対話と交渉が優先される」ようにしなければなりません。これは、「国際紛争

を解決する手段として」の戦争を放棄したのみならず、「戦力」を持たず、「国の交戦権」も否定し、「平和を愛する諸国民の公正と信義に信頼して、われらの安全と生存を保持しようと決意し」た日本国憲法の理念に通じているといえます。

現実には、日本を含む北東アジアに目を向けると、残念ながら北朝鮮がアメリカとの外交交渉の切り札として核兵器を開発し、それへの対応もあって韓国はアメリカの核の傘への依存を強めつつあります。日本国内では、北朝鮮の脅威とともに、中国の脅威(軍備の近代化、核保有)を強調する声もあがっています。しかし、中国はアメリカと異なり、核の先制不使用(相手が先に核兵器を使わない限り、中国から先に核兵器を使うことはない)を宣言しています。だからといって中国の核保有が正当化されるわけでももちろんありませんが、

中国の核保有を理由に日本が核の傘を求めるのは本末転倒です。わたしたちがなすべきことは、まずは日本・韓国・北朝鮮の非核化を進めることです。具体的には、日本と韓国を覆い、北朝鮮にとって大きな脅威となっているアメリカの核を、北東アジアから撤去させ、同時に北朝鮮に核を放棄させることで北東アジア非核地帯を実現することです。すでに、ラテンアメリカ・カリブ海、南太平洋、東南アジア、アフリカ、中央アジアが非核地

(四面に続く)

反戦の川柳作家

鶴 彬 (つるあきら)

生誕100年記念映画 「鶴彬 こころの軌跡」 が完成

岡谷よし子 (常任世話人)

29歳で獄中死した鶴彬 (1909〜1938) は、作家小林多喜二と並び暗黒の時代に生きた文学者でした。単に反戦川柳家というだけでなく、川柳文学者として素晴らしい多くの句を残しました。どんな時も志を曲げずに孤立無援であっても時代に流されず自分の句を作りました。彼の句が70年たった今も鋭く光るのはそれだけまっすぐな強さによります。

私たちは、彼の偉業をたたえるだ

映画「日本の青空Ⅱ」

有料試写会のお知らせ

好評を博した映画「日本の青空」のパートⅡが完成し、記念有料試写会が開かれます。

映画は、長く無医村であった岩手県沢内村は豪雪・多病・貧困の三悪状態でした。これを克服しようとして立ち上がった医師夫妻の奮闘のドラマです。村長となった医師は老人と乳児の医療費無料化に踏み切り、全国初の乳児死亡率ゼロを実現しました。

けではなく、彼や多喜二が生きた時代に逆行しないように彼らが命に代えて残してくれたこの平和を次世代へバトンタッチしなければいけないと思います。今年が生誕100年を記念して神山征二郎監督による映画「鶴彬 こころの軌跡」が製作されました。奈良でも来年上映の予定です。ご期待ください。

彬の代表作

- フジヤマとサクラの国の餓死ニュース (26歳)
- 修身にない孝行で 淫売婦 (27歳)
- さん塚で読む 妹を売る手紙 (27歳)
- 枯れ芝よ 団結をして春を待つ (27歳)
- 手と足をもいだ丸太にしてかへし (28歳)
- 万歳とあげて行った手を大陸において来た (28歳)

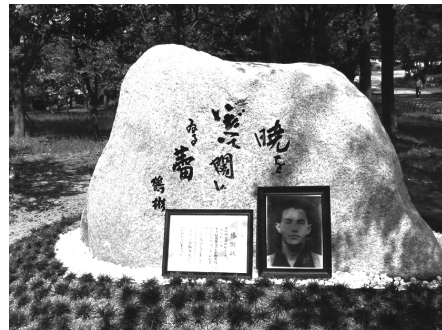
憲法25条を現実にした感動のドラマです。

有料試写会

- 11月11日(水) ①午後2時30分 ②午後6時30分
 - 11月20日(金) 午後7時
- ☆いずれもならまちセンターで
前売り券 一般 1200円
シニア 1000円
(当日1300円)

中高生・障害のある人 800円
(当日1100円)
(当日900円)

胎内の動き知るところ骨が着き (28歳)
タマ除けを産めよ殖やせよ勲章やろう (28歳)
屍のゐないニュース映画で勇ましい (28歳)



暁をいだいて闇にいる 薔 鶴 彬
©2008年9月14日大阪城公園内衛戍監獄跡地に植樹と銘石建立

私のひとり言川柳

よし子

クリーミーなマニフェストから鉛玉
幸せは時々しよっぱい味がする
西東 阿修羅は前を向いたまま

短歌

辻 久子 (谷さゆり撰)

水鉢に孵化せし目高の動くさま
秋冷の朝しばらく見つむ
庭石に小鳥の餌に置くみかん
朝な夕なに啄みにくる

帯条約を有しています。モンゴルは単独で非核兵器地位宣言を行っています。世界の動きに学び、世界の人々とともに、一日も早い非核の世界の実現をめざしましょう。

☆会の活動日誌

- ・9月1日 第132回常任世話人会
- ・10月7日 事務局会議

☆今後の予定

- ・11月10日 第133回常任世話人会
- ・12月2日 第26回非核平和の集い
- ・1月29日 第134回常任世話人会 (拡大)

☆編集後記

今号も盛りだくさんの内容になりました。日本人の朝鮮史観を厳しく見つめておられる中塚代表の労作「司馬遼太郎の歴史観」を是非ご覧下さい。中塚先生は我国朝鮮史研究の第一人者です。12月の非核平和の集いのチラシはまた岡谷よし子さんにご苦労をおかけしました。今事務局長には連続して論考を提供いただきました。来年1月の拡大常任世話人会での恒例スピーチには、脱原発の堀田代表をお招きします。どなたもご参加下さい。ご協力いただいている方々へ、心から感謝申し上げます。
(常任世話人 吉田恒俊)